

高等学校第1学年 「言語文化」



ICTを活用した個人学習で、古典作品に対する自分の作品解釈を確立し、グループ学習で自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。

高等学校第1学年「言語文化」 単元名「古典作品の解釈をとおして、自らの考えを深める」

■単元の目標

- (1) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)イ
- (2) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力〕B(1)才
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

■単元の概要

古典作品の解釈を踏まえて、作品を自分と関係付けて考えることで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。

■単元の指導計画（5時間）

第1次（1時間）

「作品を解釈すること」「作品と自分とを関係付けて考えを深めること」とはどういうことかを、1年間の学びを振り返りながらグループで話し合う。その後、教科書から作品を1つ選び、解釈を深めるための学習計画を個人で立てる。

第2次（2時間）

自らの学習計画に従い、インターネット検索やAIチャットボット等を活用しながら解釈を深め、ワークシートにまとめる。随時、同じ作品を扱う生徒で集まり、情報交換を行う。

第3次（2時間）

同じ作品を扱った生徒で集まり、どのような視点や観点で作品を解釈したか、解釈を深めていく過程で自分の考えがどのように変わったかなどを話し合う。全体共有、振り返りを行う。

■主な時間の概要

今までの学習を振り返り、「現代語訳と作品解釈の違い」、「作品と自分とを関係付けて自分の考えを深める」とはということかを具体的に想定する話し合いを進める。解釈を深めるために、歴史的・文化的背景を関連させることに留意する。
※生徒が学習計画を立てて自分で学びを進めていくには、普通の授業をとおして、文法や逐語訳のみではなく、生徒が主体的に古典解釈に取り組める姿勢を育成することが大切。

個人学習に入る前に、何を学ぶのかを教師と生徒全員が、必ず共通理解する。AIチャットボットの出力については、あくまで「参考の一つである」「誤りがあることもある」ことを認識して使用するよう指導する。

グループでの協議が、自分とは異なる視点での解釈を知る貴重な場である事を理解し、自分と異なる解釈や考え方については、質問や議論をすることで自分の考え方をさらに深めることができるようにする。

■指導上の工夫とICTの利活用

各自が自分のペース・スタイルで学習を深める。

* 自分のペースでの疑問解決や、学びを深めることができる。また、図書館等で資料を調べることに加え、**検索エンジンやAIチャットボットを活用することで、限られた授業時間内で、自分にあった学習スタイルを確立し、主体的な学習を実現**することができる。

個人学習、グループ学習、全体学習の適切な組合せと、個人学習時の支援。

* **クラウド内のワークシートや振り返りによって、教師は常に生徒の学習状況を把握し、必要に応じて、問いの投げかけや意見交換を促すなど、適当な支援を行っている。**

毎時間、各生徒の進捗を共有しながら、全体での振り返りを行い、考えが深まったと思うこと、学習が上手く進んでいると思う状況などを共有するなど、生徒が個人学習を振り返り、目標を確認する時間を設ける工夫もなされている。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2、3次）

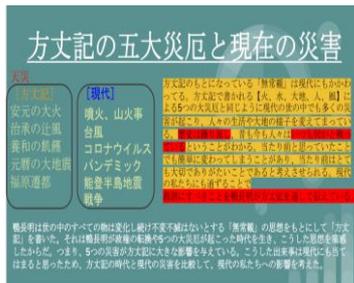
【学習活動の場面】

自分で立てた学習計画に基づき、調べ学習を行い情報を整理する。グループ学習では、それぞれが得た知見を共有しながら、ものの見方、感じ方、考え方を多面的に深め、作品の解釈を広げていく。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aは、解釈する作品として『方丈記』を選び、**作品の時代背景や当時の人々の暮らしを調べた。他の作品や絵巻などを参照することで、作品に描かれた社会と現代社会とを重ね合わせて考え、「災害などによって人間の日常は一瞬で崩れてしまうが、それでも人は再生に向かって立ち上がる」という人間の姿を読み取った。グループ活動では、「作中の自然災害と現代の災害とを比較して考えた」「作品から、現代社会を生きるヒントが得られるのではないか」という意見等が出された。これらを踏まえてAは、「世界は昔も今も**不測の事態によって変化し続けている。本作品は変化を恐れるのではなく、変化に対して柔軟に向き合うことの大切さを教えてくれている**」という考えに至った。**

単元の振り返りにおいてグループでは、**古典を単に現代語訳して理解するだけでなく、現代の視点で読み解き、現代の価値観で再解釈することで、新たな意味や価値を見出し、この重要性を確認し合った。**



【当該指導での「深い学び」】

本事例は「言語文化」のまとめと「古典探究」への橋渡しとして位置付けられた単元である。明確な課題設定（ここでは「作品の解釈をもとに、作品と自分とを関係付けて考えを深める」と）と、検索エンジンやAIチャットボットなどのICTの活用により、古典の授業における探究的な学びが実現している。この事例で注目すべきところは、**個人学習とグループ学習を有機的に結びつけ、それぞれの場面でICTが深い学びを支えている点**である。ICTを活用した個人学習では**情報を収集・整理し、自分の問いに基づいた仮説を立てることで、作品を多角的に読み解いている。この過程で得た視点や知見がグループ活動での議論を豊かにし、他者との対話を通じて解釈をさらに深めることができる。**また、ICTを活用した情報の視覚的整理や記録、共有のプロセスにより、生徒は自分に合った学習スタイルを見出し、学習に対する主体性や柔軟な思考力を身に付けている。従来型の古典学習にとどまらず、ICTの利活用によって、自らの視点で古典を解釈し、自らの考えを深めることにつながっている。

【活用したソフトや機能】 Googleスライド、Googleスプレッドシート、AIチャットボット

学習指導要領や解説との関連

高等学校学習指導要領 第2章 第1節 国語

第2款 各科目 第2 言語文化 2 内容

〔知識及び技能〕（2）

イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕B 読むこと（1）

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

出典：高等学校学習指導要領P36,37

作品の内容や解釈を踏まえ、それを自分と関係付けて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることを目指している。このことは、作品を読み深めて、単に内容を捉えたり解釈を深めたりすることにとどまらず、自分が対象をどのような視点、観点、立場によって、どのような感性や感情をもって、どのような認識や解釈の仕方によって捉えるかという、対象に対する向かい方自体の深まりを意味している。

出典：高等学校指導要領（平成30年告示）解説国語編P131